

2026年度企画展

# くすりと医療のたどった道

## — 古代から江戸までの病との闘い —

【開催期間】2026年4月29日(水)～2027年3月31日(水)

【開館日時】火曜～日曜日 9時～16時30分(最終入場16時) 〔休館日〕月曜・年末年始

【入館料】無料(無料駐車場あり)



主催 内藤記念くすり博物館

公益財団法人内藤記念科学振興財団

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1

TEL. 0586-89-2101 / FAX. 0586-89-2197

# くすりと医療のたどった道

## — 古代から江戸までの病との闘い —

内藤記念くすり博物館は1971年の開館以来、日本の医薬の歴史を伝えてきました。本企画展では原点に立ち返り、今年度と来年度の2回にわたって日本薬学史の通史を取り上げます。

日本の医薬は、時代とともに大きく姿を変えてきました。古代から飛鳥時代前期には、動植物の薬効を経験的に学び、知識として蓄積する時代が続きました。飛鳥時代後半には文字文化の受容とともに中国医学が伝来し、奈良時代には律令制のもと内薬師・典薬寮が設置され、国家が医療に関与する体制が整いました。しかし平安時代に入ると、多くの疫病が流行したにもかかわらず、医療よりも陰陽師や僧侶の加持祈祷に頼る傾向が強まります。鎌倉・室町時代になると、外科を行う医師の需要が高まり、医療は再び実践的な方向へと転換します。江戸時代には、前期に漢方医学が隆盛を迎え、後期にはオランダを介して西洋医学が流入しました。

「人を全体として捉える東洋医学」と「身体の細部に着目し近代科学を基盤とする西洋医学」—この2つの視点が、現代医療の発展を支える大きな柱となっています。本企画展が日本の医薬の歩みに触れ、その奥深さを感じていただくきっかけとなれば幸いです。

### 【主な展示物】

やまいのそうし  
平安時代の病気を描いた『疾草紙』、解体新書、天然痘のワクチンを接種した種痘器具、幕末のコレラ除けの薬など



赤物  
ほうそう  
疱瘡（天然痘）除けのおもちゃ。



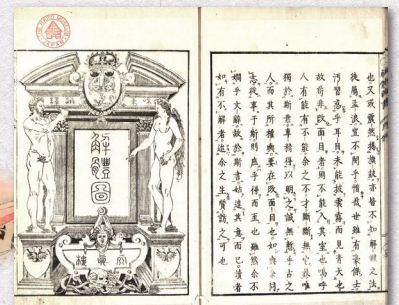
ことうさつき ゆうおうえん  
虎頭殺鬼雄黄円  
コレラ除けの薬。大阪の神社で配布された。



しゅとうきく どうびょう  
種痘器具と痘苗（ワクチン）  
画像は大正時代の器具



『疾草紙』  
平安時代の病気を描いた絵巻。  
（江戸時代の模写）



『解体新書』  
オランダ語から最初に日本語に翻訳された解剖書。

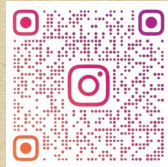
※期間中展示の入れ替えあり

## 内藤記念くすり博物館

公式HP「くすりの博物館」  
<https://www.eisai.co.jp/museum/index.html>  
 〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1  
 tel. 0586-89-2101 / fax. 0586-89-2197  
 開館時間 9:00~16:30(最終入場16:00)  
 休館日 月曜・年末年始  
 入館料 無料



公式HP



公式Instagram

### 交通のご案内

